

オーディオ実験室収載

micro iDSD BL の導入(13)

—総合試聴(2)—

1. はじめに

[前報\(12\)](#)に引き続き、オーディオ仲間のご来臨を機会に micro iDSD BL の導入以外の効果を含めて総合的に下記の効果も含めて試聴していただくことになりました。これらの試聴結果はそれぞれオーディオ実験室のページで報告していますので、サイト内検索か、サイトマップのオーディオ実験室 Index でご確認ください。なお、今回ご来臨を得たのは、ST 氏、M 氏、S 氏ならびに K 氏です。

【機器】

ENIGMA Sopranino

FIDATA HFAS1-S10

micro iDSD BL

SWD-DA20

【iFI アクセサリー】

iPurifier2 type A

iPurifier2 type B

iPurifier SPDIF

iPower

【インフラノイズアクセサリー&ケーブル】

LAN リベラメンテ

録音用ラインフィルター

PC 専用インシュレーター PSI-1000

【その他アクセサリー】

電源ノイズフィルター SFU-005A

サウンドマジックガラスボード

アモルメット組み込み電源ボックス NPX-001

アモルメット

foQシート

アナログ関連アクセサリー High Definition Disk Case

2. micro iDSD BL の試聴方法

スピーカーは、JBL4350A および FAL C90EXW とし DAC を micro iDSD BL として試聴しました。なお、比較のために iPhono を使用してアナログも試聴しました。

さらに OPPO Sonica DAC が入荷したことから、急遽この試聴も追加しました。

3. micro iDSD BL の試聴結果

ST 氏と M 氏が先に到着され、S 氏と K 氏は遅れてこられるとのことでしたので、JBL のユニットで自作のマルチアンプシステムを組まれている ST 氏のご参考のために、まず、スピーカーを JBL4350A とし、高域から低域までの音質が分かりやすい、BS 録画、アナログ、CD などの音源を選んで聴いていただきました。これらには比較的 JBL4350A で鳴らしにくい音源と鳴らしやすい音源を混ぜてみました。M 氏は全体に良くなっている、おそらくスーパーツイーターの効果とアモルメント組み込み電源ボックスの効果があるのではないかというコメントでした。ST 氏は JBL4350A を聴いていただくのは初めてですが、FAL C90EXW を聴いていただいた後に、好みは JBL4350A の方であるとのコメントをいただきました。

4. OPPO Sonica DAC の試聴結果



次いで、スピーカーは JBL4350A のままで、DAC を micro iDSD BL から Sonica DAC に繋ぎ替えて、micro iDSD BL で聴いていただいた音源を復習してみました。両者の違いははっきりとあり、Sonica DAC の方がワイドレンジで、クリアな見通しの良い音であるとの評価でした。

M 氏が持参されたケルンコンサートのアナログ盤と CD、当方の SACD 盤と DSD 音源を比較しながら聴いていただきましたが、CD に比べて最新の DSD リマスタリングの SACD はディテールの再現などが向上していますが、アナログ盤には SACD や DSD 音源にない良さがあるとのことでした。

さらに両氏がご持参の CD でボーカルや NY スタンウェイを聴きながら、High Definition Case による処理の効果を確認していただきましたが、顕著な効果とは言えないが、若干の効果はありそうだということでした。

そして、DAC は Sonica DAC のままで、スピーカーを FAL C90EXW に繋ぎ替えているところへ、S 氏と K 氏が到着されましたので、音源中心の試聴に移りました。まず、先程と同様、ケルンコンサートは手持ちのものと M 氏持参のものを合わせて、いろいろな音源を再生ルートも変えて聴いていただきましたが、結論は JBL4350A のときと変りはありませんでした。

次に、同じ無伴奏バイオリンの曲を聴いて、ストラデイバリウス 2 機種、ガルネリ 1

機種、バロックバイオリン 1 機種、ヴィヨーム 1 機種のバイオリンの機種をあてていただきましたことを行いましたが、バロックバイオリン 1 機種のみは間違いなく当たりましたが、後は外れてしまいました。同じストラディバリウスでも金属弦のための改造やガット弦の使用などで音色が変わることにもよりますが、すべて生音を知っているのですが、CD 自体が、例えば、ヴィヨームのように生音の再現ができるいないものがあることが大きいのではないかと考えられ、デジタル録音から CD のプレスの処理までの履歴で音が変わることによるものと思われます。

ここで、K 氏ご持参の生録 CD を K 氏の要望で EMT981→Leak Point1→300B シングルのデジタルプロセスをミニマムとしたラインで聴いてみましたが、音の分離や高域の伸びに不満はあるものの、テープ録音を聴いているようなアナログ的でリアルな印象でした。Leak Point1 が若干レトロな感触の音にしてしまっていますので、このあたりを替えれば、印象は変わってくると思います。K 氏によれば、いろいろ音を良くしようとデジタル処理で頑張ってはみるのですが、最初の録音の音から処理の過程で音が変わってしまうことが避けられないとのことでした。

この後、M 氏ご持参のアナログと CD の比較やピアノの機種による音の違いの比較、BS 録画の再生、ベルリンフィルのデジタルコンサートホールなどを順次かけていきましたが、NDR エルプフィルハーモニーのこけら落とし演奏会の BS 放送やベルリンフィルのデジタルコンサートホールのオーケストラもののステージ感やホールのトータルな印象が、フォーマットの限界はあるものの、録音センスに支えられ、パッケージメディアにはない鮮度感がある印象を認識していただけました。

さらに、アクセサリーの効果の確認としてスーパーツイーターの Sopranino の下に敷いてあるアリエナイザーを外して、Tigron の Mg 合金製スタンドの上に直置きしてみると、スピード感のある音に変り、元に戻しますと、元の繊細で柔らかい音に戻りました。また、M 氏がオヤイデの電磁波吸収シートを切ってスーパーツイーターのケーブルに貼り付けますと、ディテールの再現が向上しました。M 氏がアモルメットや foQ シート、電磁波吸収シートを使って市販の高級電源ケーブルにチューニングを施した電源ケーブルを Sonica DAC に使用しているパワーリベラメンテと交換してみると、シャープで引き締まった音になりました。こういった細部のチューニングは、聴く音楽ジャンルや好みの問題で味付けの領域になるかと思います。

なお、Sonica DAC は当日の 3 日前に到着したもので、十分な設置条件の検討はできないままの試聴になってしまったことを付け加えておきます。これらの Sonica DAC の詳細な報告は別途行います。

5. まとめ

- 1) JBL4350Aについては、最初に述べたいろいろな対策の結果、DACがmicro iDSD BLの状態で、クラシックの再生時における弱点を克服しつつ、全体にバランスよく仕上がってきていることを確認していただきました。
- 2) Sonica DACについては、到着したばかりの仮置き状態でしたが、ワイドレンジで、クリアな見通しの良い音であるとの評価でした。
- 3) 同じマスターからのアナログ盤とハイレゾディジタル音源の聴き比べでは、それぞれのメリット、デメリットが確認されました。
- 4) K氏の持参された生録CDの試聴、ならびに同じ曲の無伴奏バイオリンで聴いてバイオリンの機種を当てる試聴の結果からは、ディジタル録音からCD製作の処理プロセスで音が変りやすく、実際の生音とは変ってくる問題点の認識が共有されました。
- 5) 一方、加工の程度が小さい、BS放送やベルリンフィルディジタルコンサートホールのようなストリーミング再生、あるいはケルンコンサートのアナログマスターからのDSDリマスタリングでは、実際の生音再現により近づきつつあるとの感触が得られました。

なお、時間の関係で、11.2MHzDSD録音音源やPrimeSeatのDSDオンデマンドストリーミング再生は省略しました。

また、さらなるブレークスルーの示唆もいただきましたが、いずれもかなりの追加投資を必要としますので悩ましいところです。今後はSonica DACを使いこなして、ネットワークオーディオやAir Pay、ネットからのストリーミング再生を進めていきたいと思っております。

以上